

# ◎シリーズ 長岡京歴史散歩

(140)

## 長岡第四小学校区の遺跡 ～旧友岡川と周辺遺跡～

長岡第四小学校は、奥海印寺から大山崎町の下植野に延びる小高い丘の上にあります。

この丘は、今からおよそ1～2万年前に形成された段丘といわれています。丘を削って流れる谷が、梅が丘周辺から長四小のグラウンドの南側を通って、緑が丘周辺の平原に流れ出していました。

現在の友岡川の流路とよく似ているので、ここでは旧友岡川と呼ぶことにしましょう。旧友岡川は、数カ所で埋蔵文化財の発掘調査をしています。長四小の南側では、6カ所で調査を行いました。今回は、その調査成果をご紹介します。

調査で見つかった旧友岡川の堆積層は、砂礫層から砂層、そして粘土層へと移り変わっています。

これは、各調査地点付近の水の流れが止まり、土地が沼地のような状態に変わっていったことの証です。砂層には旧石器や古墳時代の石器や土器が、粘土層には奈良や平安時代の土器や陶器などが含まれています。最も上の粘土層には、鎌倉時代の土器などがありました。

出土した遺物から、谷の流路が変わり、水の流れが止まっていったのが古墳時代ごろで、この土地が、平安時代までは湿潤な立地条件であり、鎌倉時代以後に水田開発が進んだと考えられます。

谷が盛んに砂礫を堆積させ



▲長岡京市史資料編一地形分類図部分

た時期は、遺物が見つかっていないのでわかりません。しかし、砂礫層より上の層から出土した遺物から、およそ2万年前の旧石器時代以前と考えられます。

なぜ、歩くこともままならないような堆積土の中に、土器や石器が含まれていたのでしょうか。

旧友岡川の周辺には、長岡京跡はもちろん、「友岡遺跡」と呼んでいる縄文時代から鎌倉時代までの集落遺跡や、旧石器時代の「野手遺跡」のほか、このシリーズでも紹介した「鞆岡廃寺」や鎌倉時代の有力者の屋敷跡推定遺跡などがあります。

これらの遺跡に関わる遺物が、沼地状の堆積土と共に埋まっていたと考えられます。

旧石器時代と縄文時代については遺物が見つかったのに、遺跡の中心部がどこにあるのか全くわかっていません。ちょうど旧友岡川が流れを変え、沼地状になったころにあたります。

下の写真の1は旧石器時代のナイフ形石器、2～4は縄文時代の削る道具(搔器・石匙)です。他に、縄文土器なども見つかっています。このような石器や土器を使った人たちの集落やキャンプ地が、必ず近くから見つかることでしょう。



▲友岡遺跡・野手遺跡から出土した石器